

伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターニュース

新年、明けましておめでとうございます。
 今年、伊豆沼・内沼はラムサール条約登録30周年を迎えます。
 水鳥が多く飛来するこの地域を皆様と共に守っていきます。本年もよろしくお願い致します。

(公財) 宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団
 〈事務局〉
 〒989-5504
 宮城県栗原市若柳字上畑岡敷味17-2
 Tel:0228-33-2216 Fax:0228-33-2217
 ホームページ: <http://izunuma.org/>
 E-mail : izunuma@circus.ocn.ne.jp



◇活動報告

【第16回国際ガン類専門家会議に参加しました】

平成26年11月22日～25日に中国科学院生態環境研究センター（中国・北京）において、第16回国際ガン類専門家会議が開催されました。ロシアなど13カ国から37名のガン類研究者が集まりました。

初日に、東アジアと世界のガン類の生息状況と保全管理、2日目以降に種別に議論が展開されました。嶋田はコクガングループで、「東日本大震災がコクガンの越冬分布に与えた影響」など2本の口頭発表を行いました。

研究センターにこもりきりの会議でしたが、25日午後からは中国最大の淡水湖であるポーヤン湖で現地見学会が行われました。絶滅危惧種のソデグロツルをはじめ、サカツラガン、ソリハシセイタカシギの群れなどが、茫漠たる湿地を自由に行き交っていました。

アジアのガン類の生息状況を総括し、問題点を抽出する上で有意義な会議でした。（嶋田）



ポーヤン湖のソデグロツル（右端はマナツル）

【宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターの修繕工事が完了】

7月中旬より実施してきました、宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンターの外壁等修繕工事は、12月16日に完了しましたのでお知らせします。この間、皆様には、何かとご不便をおかけし、心よりお詫び申し上げます。

なお、今後、館内の展示内装等についても全面改装する予定となっておりますが、当該工事につきましては、工事スケジュール等が確定しだいお知らせ致します。



工事終了後のようす

外来魚防除活動の成果紹介



沼の魚類が回復の兆し！？



毎年11月に、沼の魚介類の生息状況を定置網を使って調べています。秋まで生き残った魚介類の量を調べることによって、その年の外来魚防除活動の効果がどのくらいであったのかがわかります。

ここ数年の傾向としては、在来魚類は増える傾向にありましたが、オオクチバスやブルーギルも多数捕獲されていました。しかし、今年の定置網調査では、モツゴやタモロコなどの小魚が定置網一枚当たり数千匹捕れたのに対して、外来魚類は1~2匹しか捕れませんでした。

このように小魚類が増加したのは、これまで続けて行ってきたバス・バスターズの駆除活動や、電気ショッカーボートなど、一年を通した総合的な外来魚駆除活動の成果が現れていると言えます。今後も外来魚防除に継続して取り組むことで、昔の伊豆沼に少しずつでも近づけていきたいと思えます。（芦澤）



魚の仕分け作業



定置網で捕獲した魚類。

伊豆沼・内沼からマガンの飛び立ち風景を消さないために

伊豆沼で、マガンが一斉に飛び立つ貴重な風景が見られなくなるかもしれません。その原因の一つは、湖面に当たる車のライトやカメラのフラッシュです。獅子ヶ鼻（伊豆沼西側堤防）は、朝日をバックにマガンが飛び立つ絶好の撮影スポットです。堤防の拡幅により、人や車が入り易くなったため、カメラのフラッシュや車のライトの光に驚いてしまい、この絶好の撮影スポットを避けるようになってしまいました。マガンは安心な場所にねぐらをとります。マガンを思いやり、地域の大切な風景を守っていく必要があります。



伊豆沼を象徴する風景が消えてしまうかも



栗原市によって設置された注意看板

年末・年始の休館について

宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリセンター及び栗原市サンクチュアリセンターつきだて館の年末・年始の休館日は、以下のとおりとなります。ぜひ、伊豆沼・内沼にお越しの際は、両センターへお立ち寄り下さい。

**休館日：平成26年12月29~31日
平成27年 1月 5日**

（年始開館日：平成27年1月1日~1月4日）

◇渡り鳥飛来情報（2014年12月12日）

ガ ン 類	107,316 羽
ハクチョウ類	1,597 羽
カ 毛 類	1,253 羽
合 計	110,166 羽